

# 屋中だより

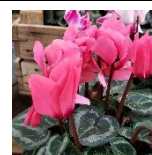
令和7年 12月 23日 No.8

千曲市立屋代中学校

学校長 柳澤 正寿

(文責) 本田 耕一

<http://www.chikuma-ngn.ed.jp/~yashirojh/>



シクラメン

\*「屋中だより」は、屋代中学校ホームページでご覧いただけます。(千曲市教育委員会⇒小中学校⇒屋代中学校)

## 全国学力・学習状況調査からみられる成果と課題

千曲市立屋代中学校長 柳澤 正寿

3年生が4月17日に行った「全国学力・学習状況調査」の本校の結果について、お知らせします。

### 1 国語

#### (1) 結果概要

○本校の国語の平均正答率は、全国および長野県の平均正答率と同程度でした。

○領域別にみると、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」ともに、平均正答率は、50%を上回っていますが、課題があります。

#### (2) 成果の見られた問題の概況と結果

○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国と比較してよくできています。これは、グループワークの機会を單元ごとに設けており、小集団による話し合いを重ねたことで、相手の反応を見て自分の考えを伝える力がついてきていると考えます。集団の規模を調整しながら、今後も続けていきたいと思えます。

○読み手の立場に立って表記を確かめ、文章を整えることができるかどうかをみる問題では、全国と比較してよくできています。これは、「書く」活動を設定する際に、自分で読み返すことと、他者に読んでもらうことを大切にして、文の構成などのポイントを示し、「書く」→「見直す」→「修正」を繰り返してきた成果といえます。

#### (3) 授業改善のポイント

○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国と比較して課題があります。スライドを用いての発表は国語科の授業にとどまらずに機会を設けてきていますが、その際の振り返りにおいて提示した資料が適切だったのか、さらに工夫できることはなかったのか、客観的に振り返る機会が不足しているものと考えます。目的にあった資料作成ができるような振り返りの内容を見直して、授業を改善していきます。

○表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題では、全国と比較して同程度の正答率でした。回答の類型から、物語の内容はおおむねとらえられていると考えられますが、作者の意図するところまで読みとれるように力をつけていきたいと思えます。説明的文章

と同様に、物語文においても、構成や表現にある作者の意図を考え、読みを深めていく場面を設定していくようにします。

## 2 数学

### (1) 結果概要

○本校の数学の平均正答率は、全国および長野県の平均正答率と同程度でした。

○領域別に正答率をみると、「数と式」では40%を下回り、「図形」では50%を下回り、課題があります。また、「関数」、「データの活用」では、50%を上回っていますが、課題があります。

### (2) 成果の見られた問題の概況と結果

○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題では、全国と比較してよくできています。グラフを読んだり描いたりするときに、 $x$ 軸・ $y$ 軸がそれぞれ何を表しているのか確認し、座標の意味を理解できるよう指導してきたことが良かったと思われます。また、グラフから必要な情報を読み取ることができるよう、グラフからわかることを挙げるような活動も、今後も続けていきます。

○必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかを見る問題では、全国と比較してできています。実際に硬貨を用いて多数回の試行を行うことを通して、ある事柄の起こる割合が一定に近づくことについて、実感を伴って理解できるように指導してきた成果だと考えられます。今後も、確率の意味を実感しながら理解できるように指導していきます。

### (3) 授業改善のポイント

○不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題では全国と比較して課題があります。正解を選んでから、判断した理由を述べる問題ですが、正解を選んでいるものの、説明に不備があるため、結果的に不正解となってしまういました。まずは、「場合の数」を正しく数え上げられるように、樹形図等を用いた考え方を大切に、理由を書く際に、二つの確率を比較しながら判断していくという、説明の仕方もおさえて指導していきます。

## 3 理科

### (1) 結果概要

○本校の理科の平均正答率は、全国および長野県の平均正答率と同程度でした。

### (2) 成果の見られた問題の概況と結果

○科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題では、全国と比較してよくできています。授業中に実験結果や考察を共有し、「他者の意見を参考にして自分の考えをまとめる」という活動を行ってきたことが、成果につながっていると考えられます。さらに、振

りを必ず授業や単元のまとまりごとに行ってきたことや、振り返りの場面で振り返るポイントとして日常生活に触れることを推奨してきたことが成果につながっていると考えられます。

### (3) 授業改善のポイント

○電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題では、全国と比較して課題があります。回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いていなかったり、抵抗値とそこから発生する熱量との関係性の理解が深まっていないと考えられます。生徒の実生活に寄り添った授業の展開を工夫していたり、十分に問題演習の時間を確保するように、教科の運営を行っていく必要があります。

## 2 生活に関する質問に関して

### (1) 生活リズムについて

○「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」の質問では、全国平均と長野県平均をともに上回り、朝の生活については、ほとんどの生徒が規則的な生活を送れています。しかし、「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」の質問では、全国平均と長野県平均をともに下回り、夜の就寝時刻に課題があります。

### (2) 自己肯定感について

○「人の役に立つ人間になりたいと思うか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになるか」という質問には、ほぼ全員が肯定的な回答をしていました。しかし、「自分にはよいところがあると思うか」という質問では、相当数の生徒が肯定的な回答をしていますが、全国平均と同程度ですが肯定的な回答をしなかった生徒もいました。生徒のよいところを認め、それを生徒に伝えながら、一人一人の自己肯定感を育てていきたいと思います。

### (3) 学校生活や友人関係について

○「いじめは、どんなことがあってもいけないと思うか」「学校に行くのは楽しいと思うか」「友人関係に満足しているか」の質問では、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしています。今後も、さらに多くの生徒が肯定的な回答となるように、教育活動や支援、教育相談を進めていきます。

### (4) 学習について

○平日、休日ともに、学校の授業以外に学習に取り組んでいる時間については、1時間未満の生徒の割合が最も多くなっています。各教科で家庭学習のアドバイスをしていますが、ご家庭でも、学習に取り組む時間の確保や生活リズムについて、お子さんと話してみてください。

○「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問では、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしています。今後も、生徒同士が共同的に学び合えるような授業や教育活動を多く設定していきたいと考えます。